

ハイデルベルク信仰問答より

問 65 では、信仰だけが私たちを、キリストとそのすべての益にあずからせるなら、そのような信仰は、どこから生じるのですか。

答え 聖霊が聖なる福音の説教によって(I ペテロ 1:23)、私たちの心のうちに起こし(エペソ 2:8)、聖礼典の執行によって、それを確実にしてくださるのであります。

問 65 から 68 までは「聖礼典」の学びとなります。「聖礼典」とは「神の見えない恩寵を具体的に見える形で表すこと」で、英語では sacrament、ラテン語では sacramentum といいます。

教派別の呼び方：

- ・ プロテスタント：聖礼典（礼典）
- ・ カトリック：秘跡
- ・ 聖公会：聖せい奠てん
- ・ 正教会：機密

プロテスタントでは「洗礼」と「聖餐」だけが聖礼典に数えられますが、カトリックでは「洗礼」「堅信」「聖体」「ゆるし」「病者の塗油」「叙階」「結婚」の7つが含まれています。ここではプロテスタントの立場を採りますが、それは主イエスが定められた聖礼典が二つしか存在しないからです。

問 65 は問 64 までのやりとりを受けて出てきたものですが、思い出していただきますとこれまでにずっと「恵みのみに依り頼む生き方」が勧められ、人間の善事は何一つ救いに役立つものとはなり得ないことが強調されてきました。質問者はしつこく、人間の善事は救いに何らか貢献しないのかと問い続けましたが、その道はすべて閉ざされました。ここまできると、質問者は袋小路に入り込んでしまい、突破口が見つからなくなってしまいます。そこで問うのです。では救われるために一体自分は何をすればよいのか、そもそも信仰とは何なのか、それはどこから生じるのかと。それに対する答えは、極めて基本に忠実です。ここでは三つのことが教えられています。

- ① 信仰とは聖霊の働きかけによって生じる
- ② 聖霊の働きかけは福音の説教を通してもたらされる
- ③ 信仰は聖礼典の執行によって確証される

では、以下でこれら三つの内容を更に詳しく見てまいりましょう。

① 信仰とは聖霊の働きかけによって生じる

人がイエス・キリストを信じることは、その人の努力や鍛錬によってなされるのではなく、神の御霊の働きかけによると言われています。人はあくまで受動的にそれを待ち望むほかありません。

奥村自身の経験からもそれは確かです。キリスト者の仲間たちが熱心に信仰の証をするように、自分にはできないという悩みがありました。特別な救いの体験がなかったからです。しかし、その段階でできたことが一つだけありました。それは、祈ることでした。主はその祈りに確かに応えてくださいました。願う心は必要だったのだと改めて振り返っています。

② 聖霊の働きかけは福音の説教を通してもたらされる

聖霊の働きは御言葉を通してなされます。福音のメッセージなしには信仰は生じないのです。そして、そのメッセージは御言葉を解き明かす人の口を通して語られます。

説教者として生きる中で、自分の無力さを感じる事が少なからずあります。「この人を何としても信仰に導きたい」という思いがありながら、もう一步のところまで信仰告白に至らないことがあるのです。その主権は自分にはないことを思い知らされます。しかし、不思議なことに、自分が意図せずに語ったことばが、知らないところで人の心に福音の種を蒔いていたということが後で分かることもあります。そこにはただ聖霊の働きがあったのだという事を教えられ、深い感謝が湧き上がります。

③ 信仰は聖礼典の執行によって確証される

聖礼典には「洗礼」と「聖餐」の二つがあることを最初に述べさせていただきました。産声を上げた信仰は、会衆の目に分かるように、洗礼式の執行によって明確化されます。それを見た人々は、「この人は確かにキリスト者になったのだ」「この人の内には信仰があるのだ」ということを知ります。受洗者本人の内にも確信が与えられます。更に、そこから定期的にあずかる聖餐式によって、その信仰が繰り返し更新され、成長し、より確かなものとされ続けていきます。

説教と聖餐がある場所とは教会であり、礼拝です。御言葉が語られ聖礼典が執行される場所において、人は信仰に導かれるのです。信仰を持てるようになりたいと願う人は教会に行くべきなのです。そこで祈りつつ御言葉に耳を傾けてみましょう。自分の内に聖霊が働いてくださることを求めましょう。疑いが心から取り去られるように願いましょう。そのように待ち望む人を、主は放っておかれることはありません。